

今月の一言 北京で「自転車総動員活動」がスタート。5万台200拠点の公共レンタサイクルで、自動車利用抑制を目指します。1500万市民がスローライフに戻れば、スモッグのないオリンピックが実現できるでしょうか。(新田恵一)

NSRI都市・環境フォーラム、懇談会を開催しました

平成18年7月19日、経団連ホールにおいて、日建設計グループ共催「NSRI都市・環境フォーラム」および懇親会を開催。400名もの多くの方にご出席いただきました。

古橋廣之進氏をお招きして「フジヤマのトビウオが見た昭和とこれから」について講演をしていただきました

昨年のNSRI設立記念講演会から第二回を数えるフォーラムですが、今年は、戦後復興期の国づくりの時代を振り返り、今後を展望する企画といたしまして、戦後の水泳界のトップアスリート古橋廣之進氏をお招きし、「フジヤマのトビウオが見た昭和とこれから」と題した講演をしていただきました。

ご講演では、氏の幼少期から青年期にいたる人生を振り返り、当時、一見華やかに見えたであろうトップアスリートにも、戦争という時代故に、大変な苦労があったことを、明るく楽しくお話いただきました。

さらに日本社会の現状に対し、「当時は、日本がこんなに立派な国になるとは思いもしなかったが、立派すぎて、この頃は逆に墮落してしまっている。国民がだらしがない。このまま行くと、どんどん駄目になり、上がる機会を逸してしまうのではと危惧している。もう遅すぎるかもしれないが、この辺でふんどしを締めなおさなければ」とのお言葉をいただきましたが、戦後の暗い時代を乗り越え、努力の末に、日本人の心に励ましと希望を与え続けた氏のお言葉だけに、大変な重みがありました。氏の人の心を惹きつける素晴らしい話術に、会場が一体となり盛り上がる中、幕を閉じました。



講演内容は、NSRIのホームページに掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

ご来賓からのご提案：他組織と協働で都市・環境問題の研究、社会貢献を

フォーラムに続いて懇親会を開催しました。

ご来賓の皆様を代表して(財)計量計画研究所黒川洸氏からは、

「環境問題は重要な政治課題であるが、産業分野でのCO₂削減は限界がある。これからは業務、住宅などの民生分野での削減が重要で、

こういう時こそ、住宅開発からプランニングなど幅広い分野を専門とする日建設計グループの活躍が期待される。計量計画研究所、または本日ご来場の皆様と協働して、日本の支えとなるような会ができれば良いのではないか」とのご提案をいただきました。

乾杯のご挨拶をいただいた大西隆東京大学大学院教授からは、「人口が減る中で、大都市の国際競争力、地方都市の活性化など、深刻な都市問題が顕在化している。こうした分野における社会

からのニーズは強く、それを受けて、今年、東京大学に夜間の社会人コースまちづくり大学院を新設した。大学と同様に、日建設計グループのような大きな組織も、NSRIを設立し、研究部門で社会に貢献している。これはとても良いことで、同じような時期に設立した組織として、お互いに頑張っていきたい」とNSRIへのエールをいただきました。(諸隈直子)



編集後記

我が家に初めての赤ちゃんがやってきて以来、私生活のリズムが一変してしまいました。そして、冷房の設定温度も急激に上昇してしまい、28でこの酷暑を乗り切りました。かつては、寒がる妻を無視して家中を冷やしましたが、今年は、乳児の権力に抗うことはできませんでした。赤ちゃんは、エコロジーライフへのスイッチとなるのでしょうか。(A)